

# 生徒の自主的活動を育み伝統文化とふれあう修学旅行

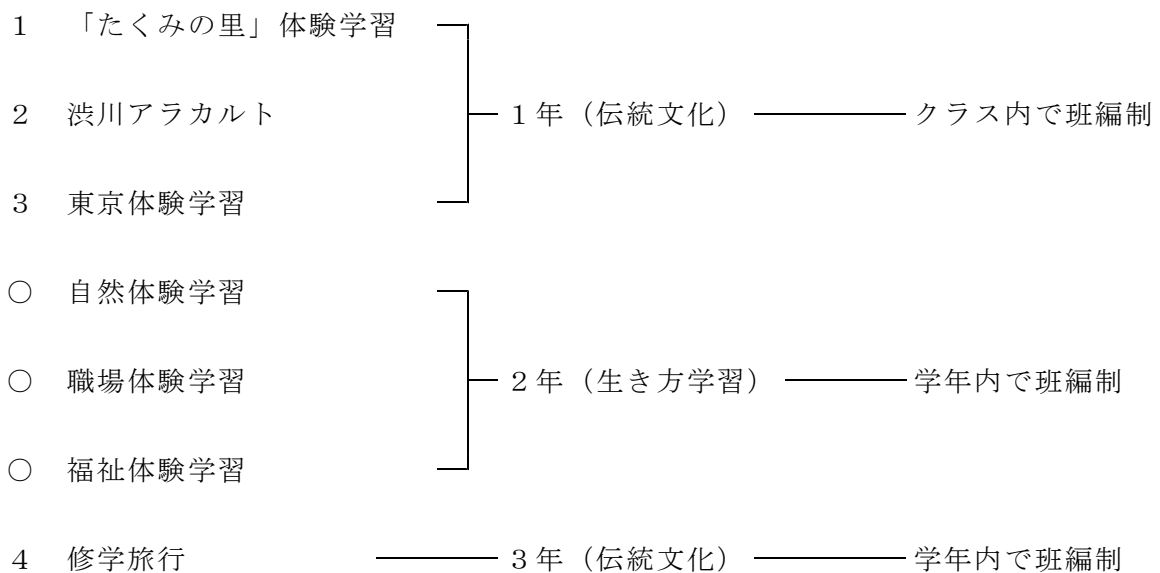
— 総合的な学習の時間における実践的取り組みを通して —

渋川市立金島中学校 教諭 栗原 和彦

## I はじめに

## II 活動のねらい

## III 具体的な取り組み



## IV まとめと今後の課題

- 1 実践の成果
- 2 今後の課題

## I はじめに

本校は、群馬県のほぼ中央に位置する渋川市の北西部にある。西に伊香保町と隣接する榛名山東麓の傾斜面に位置し、北東には吾妻川が流れている。地域の史跡や文化財として三国街道十三宿の一つとして発達した金井宿の杓ヶ橋関所跡や甲波宿禰神社、川島獅子舞、本陣地下牢跡、金井製鉄所跡等々がある。平成18年2月には、渋川市は周辺の伊香保町、赤城村、北橋村、子持村との合併し、新「渋川市」として新たなるスタートが決まっている。

本校は、今年度1年から3年の各2クラスと特殊学級のあわせて7クラス、全生徒数225名の小規模校である。生徒会活動では、金中の三本柱として「身支度がきちんとできる金中生・あいさつがきちんとできる金中生・時間がきちんと守れる金中生」を掲げ、生徒の自主的な活動を啓発している。



<校門の生徒会掲示板>

## II 活動のねらい

「生きる力を育む活動」として取り入れられた総合的学習は平成14年度の完全実施され、今年度で4年次を迎える。

本校の総合的な学習の時間のねらいは、次の通りである。

- 生徒が自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
- 学びやものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

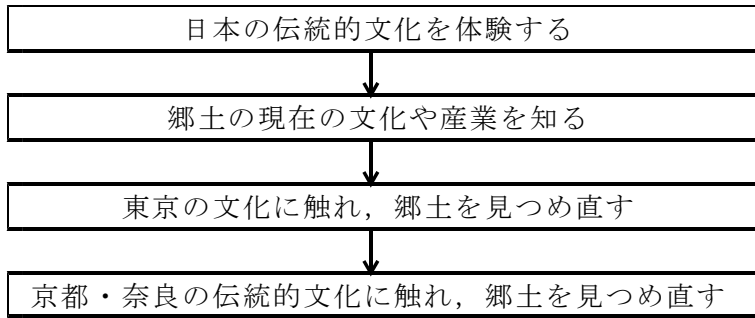
このねらいに即して、総合的な学習の時間において、問題解決的な学習および体験的な学習活動の指導の工夫や次の学習活動に生きる評価の方法等を、3年間にわたって系統的に計画し、学習を生活に生かす力（実践力）を育成しようと実践を重ねている。

生徒が主体的に活動するために「課題を発見する→テーマを設定する→追求する→結果をまとめる→他に働きかける」といった学習過程で適切な支援ができるように方法を工夫し、生徒が自分の思いや考えを生かし、主体的に課題追求を進めていくことができるようにする。また、3年間を通して、1年で学んだ問題解決のスキルが身に付き、次の学習や生活に生かすことができる生徒の育成を考えている。

修学旅行についても、「課題を発見する→テーマを設定する→追求する→結果をまとめる→他に働きかける」といった学習を実践する体験の場として、生徒の自主的活動を促すよう努めている。

また、本校は地域的にも昔ながらの風土や伝統的な行事、文化財等が残っており、身近なことがらを調査・体験することを通して、生徒の興味・関心を高め、生徒の実践力を育成しようと考えている。

3年間の具体的な系統は次の通りである。



修学旅行で歴史的に深い京都や奈良の文化を体験することにより、1年から学んできた郷土の文化をより深く理解し、郷土を愛する心を育むと共に、これからの生き方に生かしていける生徒を育成していきたい。

### Ⅲ 具体的な取り組み

#### 1 「たくみの里」体験学習

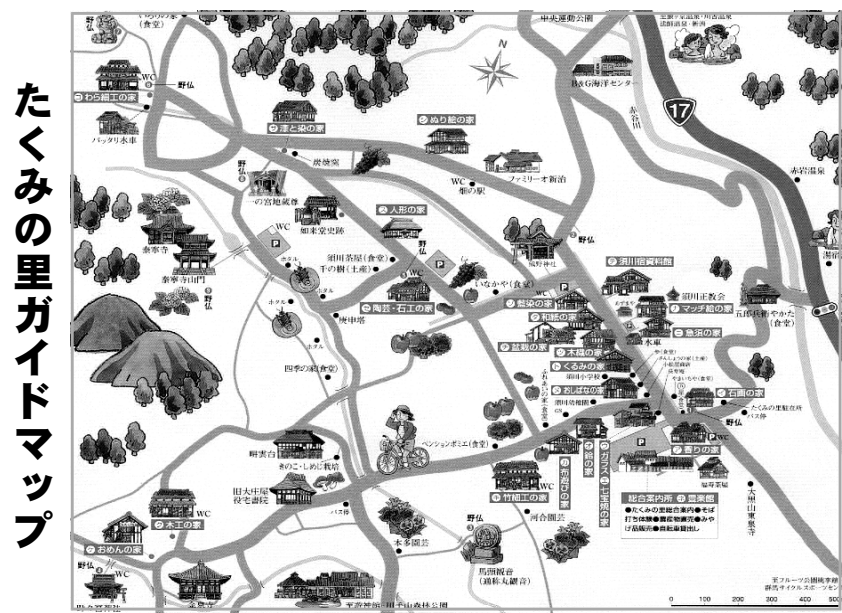
##### (1) 目的

- 日本の伝統的な文化にふれ、様々な地域の文化を学ぶ意欲を養う。
- 実行委員を中心として、生徒自らの手で行事の計画・実施・まとめを行うことによって、計画的に行事を運営する方法を知るとともに主体的な学習態度を身に付ける。
- 全体行動や班行動を通して、仲間の親睦を深めるとともに規律や協調の大切さに気づき、集団の成員としての自覚と行動を高める。

##### (2) 活動内容

「たくみの里」は群馬県北部のみなかみ町（旧 新治村）にあり、ガラスの絵付けや藍染めなど山里の伝統的な工芸を今に伝える工房が集まっている地域である。

「たくみの里」体験学習では、生徒たちに総合的な学習の流れを理解させ、基本的な問題解決的な技能を身に付けさせることを目指した。



### ①課題設定

各班の興味・関心に応じて自由に体験場所を選択させた。また、10:45～15:00を活動時間と決め、所要時間や地図などを参考にさせながら体験の計画も自由に立案させた。計画が立案できたところで、各体験場所の予約電話も生徒自身に行わせた。体験場所の方にとっては面倒なことであるので、事前に趣旨を説明するとともに文書を持参して協力をお願いした。

生徒たちには、体験活動が決まったところで、インターネットを活用させながら体験活動にまつわる基礎的な知識を調べさせるとともに、質問事項等を考えさせた。



<藍染めの家での体験>

### 体験場所一覧

豊楽館(手打ちそば体験)	和紙の家	藍染めの家
手作り郷土の香の家	くるみの家	七宝焼きの家
木工の家	木織の家	布遊びの家
竹細工の家	おめんの家	ガラスの家
わら細工の家	鈴の家	農産物加工の家
陶芸の家		

### ②課題追究(体験活動)

生徒たちはほぼ計画通りに自主的に行動することができた。体験場所の指導者の方々も親切に指導していただき、生徒たちの感想も伝統工芸に実際に触れることができてよかった、楽しく活動ができたという意見が多く好評であった。



<ガラスの家での体験>



<おめんの家での体験>



<手打ちそば体験>

### ③課題のまとめ・発表

事前学習の内容や体験の成果をもとに、模造紙などに成果をまとめ発表することができた。その際、体験の成果である作品や体験の様子なども効果的に用いるよう指導した。生徒たちはクイズや紙芝居など創意工夫を生かして、総合的な学習の時間に学年内で発表することができた。



<紙芝居による発表>

### (3) まとめ

「たくみの里」体験学習は、総合的な学習の時間の最初の課題としては「問題解決的な技能の獲得」の下地ができたと言える。特に訪問先に自分で予約をし、行き方を調べるなど自主的に行動する姿が見られた。

## 2 渋川アラカルト

### (1) 目的

- 自ら課題を見つけ、考え、課題を解決していく力を高める。特に、問題解決的な技能の獲得をねらう。
- 調査・体験活動や創造的表現活動などを通して、主体的に学ぼうとする態度や学び方を身に付ける。
- 郷土についての認識を高め、郷土に愛着を持ち、学習成果を郷土に還元しようとする意欲や態度を身に付ける。

### (2) 活動内容

主として「地域」「郷土」に視点を当てて、「渋川市を知ろう」という共通テーマ、題して『渋川アラカルト』というテーマで総合的な学習を進めた。学習形態は学級ごとの班単位とすることにし、各自の興味や関心を考慮して班編成を行い、課題設定の段階でも十分に意見を出し合わせるよう配慮した。

#### ①課題設定

「たくみの里」体験学習とは異なり、漠然としたテーマであるため、生徒が主体的に課題設定をするために次のようなことを確認した。

- Ⓐ生徒がもった課題が小さなことでもその意味を受け止める
- Ⓑ生徒の課題追究が発展するように助言や手助けをする
- Ⓒ生徒の国語力（文章化する力）に鑑み、具体例を示しながら助言する

課題を模索するなか、渋川だけにこだわらず、「渋川市と比べる」ことで、社会全体への疑問を投げかけるというテーマでもよいこととし、生徒たちには課題とする分野を限定せず、自らの興味・関心に基づいて、課題を考えるよう伝えた。何でもよいと言われて戸惑いを見せる生徒もいたが、多くの生徒は「自分のやりたいこと」を徐々につかむことができた。

また、毎日の学習や生活の記録として活用している「生活記録ノート」により、身近な疑問を意識化させるようにした。日々の疑問や気づきを文章化させることで、生徒自らに意識化させようと考えた。日常生活の中で、「なぜだろう」とか「よくわからないな」という気持ちは常に存在する。しかし、多忙な生活を送るうちに、疑問や気づいた

ことさえ忘れてしまいがちである。生活記録に、毎日一つは疑問や気づきを記入することという制約を与えることで、生徒が生活の中の疑問や気づきを意識することをねらった。生徒たちが記入した事項は、たわいのないものが多かったが、週に一回の総合的な学習の時間のみならず、毎日の生活の中で疑問や気づきを意識できたことはたいへん良かった。

## ②課題の追究

課題追究は、インターネットによる検索や文献を利用して行った。しかし、地域に関する書籍の数は多くなく、実際にはインターネットに頼る部分が多くなってしまった。

体験活動は、「たくみの里」と同様に生徒自身がアポイントメントをとって、自主的な活動を行った。ただし、原則として公共交通機関を利用させるとした交通手段だったが、一部の地域にはバスの路線網がないために、保護者による送迎を依頼した。



<金井りんご園>

上記の支援により、全ての班が体験活動を実施できた。下記にあげる生徒の感想に見られるとおり、ほとんどすべての生徒が「楽しかった」と感想を述べており、体験活動は、「問題解決的な技能の獲得」の他に、意欲向上としても有効であったと言える。

## ③課題のまとめ・発表

課題追究資料を基に、実践の成果を個人でまとめた。初めての体験であり、個人で作成することから、レポートの構成が難しいものにならないよう考えた。そこで、今回は時系列的・項目別に調べたことをまとめる構成とし、誰でも書きやすくなるよう配慮した。また、事例を示し参考にさせた。



<老舗のお菓子屋>

## (3) まとめ

渋川アラカルトを通して、「自ら課題を見つけ、考え、課題を解決していく力を高める。特に、問題解決的な技能の獲得をねらう。」ことに対しては、おおむね身に付いたのではないかと感じられた。それぞれの生徒が自分の意志を持って課題を立て、主体的に体験・訪問活動を行い、まとめのレポートまで自主的な活動ができていた。

また、「郷土についても認識を高め、郷土に愛着を持ち、学習成果を郷土に還元しようとする意欲や態度を身につける」ことに関しては、「渋川アラカルト（渋川市を知ろう）」という共通テーマが、地域・郷土に限定しなかったことから、「愛着」「郷土に還元」という意識を持たせることが弱かった。

「渋川アラカルト」について、生徒は非常に楽しく感じており、活動に好感を持って接していた。

## 渋川アラカルトの訪問先と学習テーマ（抜粋）

訪問先	学習テーマ
グリーン牧場	渋川の観光名所を調べ、楽しい観光名所を明らかにし、観光客がたくさん来るような渋川にしよう。
金井りんご園	同じ物を作っている地方と比べ、渋川市の特産物について調べ、どのような違いがあるか調べる。
スカイテルメ	渋川の公共施設について調べ、公共施設の大切さを明らかにし、公共施設が利用しやすくなるようにしよう。

### 3 東京体験学習

#### (1) 目的

- 地域学習の一環として、東京について理解を深める。
- 班の行動計画づくりや班別行動を通して、各自が自主的、計画的に行動することを学ぶ。
- これまで各自、各班で取り組んできた総合的な学習についてのテーマにせまる体験学習を計画、実践することでテーマについての理解を深め、興味関心を高める。
- 体験学習の準備や活動を通して、仲間との協力や集団生活のあり方を身につける。

#### (2) 活動内容

「渋川アラカルト」との関連を考え、班ごとにテーマを設定し、体験学習を計画した。東京での活動ということで、興味・関心での班編制を基本としながらも、安全面からグループの人数が極端に少なくならないように配慮した。

##### ①課題設定

課題及び体験場所は「渋川アラカルト」に関連があるものを設定させるために、班別の体験学習計画を立案させる段階で、下のような資料を用いて支援を行った。



<江戸東京博物館にて>

#### 【資料】班別の体験学習計画を立てよう

- 江戸東京博物館で昼食を摂ったら、いよいよ班別の活動がスタートします。
  - ・東京は、なかなか手ごわいです。計画をしっかり立てること、事前の学習をしっかりやること。
- 活動時間
  - ・昼食終了～15:30上野公園集合 ・昼食は江戸東京博物館の無料休憩所を利用。
- 班別体験学習の計画は総合的な学習のテーマとできるだけ関連をさせて考えましょう。
- 体験学習についてのヒント
  - ・江戸東京博物館をじっくり体験する
  - ・その他の博物館や美術館や施設設備を体験する
  - ・東京のガイド本、インターネット、図書室等を駆使して計画を具体化していこう。
- 移動手段についての学習は絶対必要・全員必要
  - 両国～体験場所～上野公園はJR・地下鉄・バスなどいくつかの交通手段を利用します。

都市交通はたいへん混み入っていて難しいです。出口を間違えただけで、目的地にたどり着けない。

○15:30上野公園集合は全員の大きな目標

全員が集合時間にそろうことが大きな目標です。しっかりと計画を立て、行動しよう

## ②課題の追究（体験活動）

両国までは割引運賃のこともあり団体行動であったが、江戸東京博物館からの班別行動では緊張した表情が多く見られた。明らかに金島地区とは異なる交通網であったが、ほとんどすべての班が計画通りの見学ができた。

## (3) まとめ

各自のテーマをもって東京で体験学習をおこなったが、調べている内容以外にも、様々な都会と渋川の違いを感じてくれたようだ。班行動も時間どおり進み、協力しながら活動できたことで、仲間の良さや集団行動の良さを感じることができたようだ。

また、新幹線に初めて乗ったり、都会を感じたり何よりも班でどきどきしながら、計画した場所に電車を乗り継ぎ、体験し、集合時間に全員が上野に戻ってこられたことは、大きな自信につながったと思う。



<江戸東京博物館にて>



<東京体験の発表会>

## 4 修学旅行

### (1) 目的

- 京都、奈良の日本の伝統的文化に直接触れることによって、各教科における学習を拡充するとともに、伝統文化への興味関心を高める。
- 班の行動計画づくりや班別行動を通して、各自が自主的、計画的に行動することを学ぶ。
- 宿泊を伴う集団行動を通して、社会人としての基礎である集団生活のあり方や公衆道徳を身につける。
- 修学旅行の準備や活動を通して、仲間と楽しく協力することにより、お互いの人間関係を深め、よき思い出を作るとともに、今後の学校生活に生かしていく。

### (2) 活動内容

本校は2学年から3学年へとクラス再編成を行うため、進級してからの準備を始めるのでは、期間が短い。そのため、2学年の3学期の総合の時間を充てて、事前学習や事前指導を行っている。

3日間の行程の中で、基本的な活動はすべて班単位の行動とし、特に京都市内を見学するときには公共の交通機関を利用する活動とすることにした。



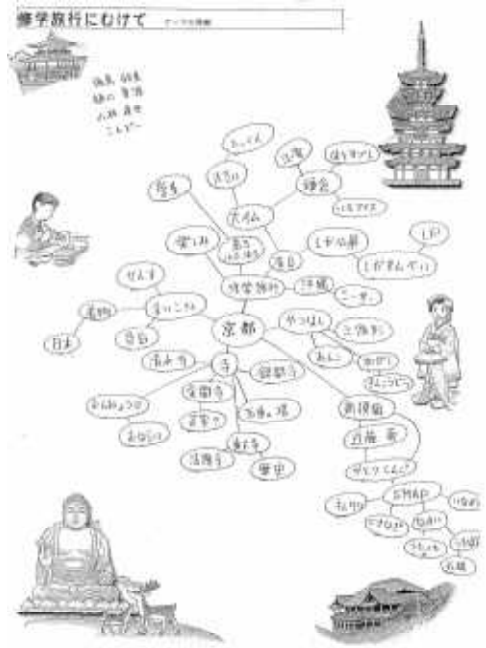
①課題設定

情報メディアや先輩からの話により,京都や奈良への漠然とした知識は持っていたが,京都と奈良の違いも理解できていない生徒が多かった。そこで,まず生徒の興味や関心を広げ,仲間との情報の交換を行うためにウェビングを利用した。ウェビングの広がり具合は班ごとに様々であったが,寺院や文化的な物,なかでも昨年度に世間の話題をさらった新撰組に関わるものが多かった。

調査活動は,主にインターネットによる検索や文献を利用して行った。市販の観光ガイドブックも利用した。寺院については歴史的なことがらについて調べさせ,京都や奈良での修学旅行の目的を意識させた。また,活動計画には必ず体験活動を入れることを伝え,文化的な面での調査活動も進めた。

その中で個人の課題を立て,教師側で似ている課題を集めて班編制をした。しかし,3日目の行動をタクシーでの行動にするため1班の人数の制限があり,完全に課題ごとに分かれる班編制にはならなかった。

京都での班別行動については,これまでの活動と同様に公共の交通機関を利用するように伝えた。京都市内のバス路線図や地下鉄路線図の見方に当初は困惑が見られたが,徐々に慣れ,効率的な見学コースを計画することができた。その際,旅行業者とも連絡を取り合い,計画を事前に確認してもらうことができた。



<ウェビング（京都）>

体験活動については,班別行動の計画を立てながら生徒が直接電話連絡をし,体験場所と相談しながら体験時間を決めた。

修学旅行 事前学習	氏名
<b>清水寺</b>	
所在地	
時代: 平安時代	
建立者: 坂上田村麻呂	
歴史: 康和7(875)年 坂上田村麻呂が 増城鎮の築造を命じられ清水山の山中に 独立の仏殿を建てたが 195年に清水寺と号し, 奈良御祭の祭りの御祭の神倉に 平安末期には比叡山の僧長により修復され 現在の堂塔の多くは江戸時代の再建 見所: 本堂・139本の柱を支えている。163年 下部は釘も使わない「地盤上げ」で足場を 組む「懸造り」になっている。 音羽の滝 石がはかばかといわれ ひびくで飲んだりできる 太子神社 熊鷹が神。1丈の石が石ハ 目をつぶって歩くことが「熊鷹の殿」の神のつと めという「熊鷹の石」の神	

<事前学習>

②課題追求

(現地での活動)



<プレスレット作り体験>

- 第1日 奈良での班別活動
- 第2日 京都での班別活動
  - ・奈良の旅館を出発し,京都で一日行動
  - ・体験活動
- 第3日 京都での班別活動(タクシー)

### ③体験学習の生徒の感想

扇子に自分の好きな絵を描き、楽しく体験してきました。届くのが、一ヶ月後と聞いて早く来ないかな？と、首を長くして待っていました。ちょうど一ヶ月後に学校に届いて、すぐにふたを開けて扇子を見ました。我ながら、綺麗に出来て嬉しかったです♪♪

わたしは天然石でブレスレットを作った。トルコ石など見たことも聞いたこともない石もあった。磁石じゃないのに同じ石同士がくっつく物もあった。黒い水晶もあった。全部の石を使って作りたかったが、自分なりにいい物が作れたし、普段見られないような天然石がみられていい体験ができた。

新京極近くで八つ橋作り体験をしました。手本を見て、「意外と簡単な作業だなあ。」と思ったけど、作ってみると失敗ばかりでした。新京極近くでもウロウロと迷ったけれど、何とか八つ橋体験ができ良かったです。

八つ橋はお餅を平たく伸ばしてあんこを包むだけで簡単に作れたので、普通の形だけではなく餃子型八つ橋を作って遊んでみたりもしました。でもあまりにも簡単に作ってしまったので少し物足りなさも感じました。

### 京都での体験活動場所

体験内容	体験場所
友禅染 扇子作り体験	丸益西村屋
扇子の絵付け体験	舞扇堂
扇子の絵付け体験	京扇堂
八つ橋作り体験	井筒八つ橋本舗
八つ橋作り体験	京都タワー
ブレスレット作り体験	今井半念珠店



<友禅染体験>



<八つ橋作り体験>



<友禅染の扇子（1ヶ月後）>

## V まとめと今後の課題

### 1 実践の成果

#### (1) 総合的な学習の時間としての成果

1 学年から 3 学年までそれぞれの学年の目標を設定し、3 年間を見通した系統的な指導に取り組んできた。学年が進むにつれて学習の内容や育てたい資質にも深まりと工夫がみられた。

##### ①「課題を発見する」

身近な疑問点や気づきを基に考えさせたり、課題設定のための援助方法を支援者が研究でき、課題設定をしやすくする工夫ができた。課題の発見は後々の意欲を大きく左右することなのでさらに研究したい。

##### ②「テーマを設定する」

自分の考えを生かして学習を進めることができるようなテーマ設定をするよう助言ができた。各学年とも班編制には個人の考えが反映されるよう工夫ができた。

##### ③「追求する」

課題学習のスタイルとスキルの獲得、スキルアップは学年が進むにつれて身に付いてきた。また、調査方法の工夫やコンピュータの活用にも技術の向上が見られた。

##### ④「結果をまとめる」

発表の場面では発表方法を工夫して、自分たちの意見や学習内容をわかりやすく伝えようとする姿勢を高めることができた。また、レポートや発表資料の作成、プレゼンテーションの方法も、学年が進むに従い工夫を凝らしたものが増えてきた。

##### ⑤「他に働きかける」

内容がわかることから自分の生き方について考え、さらには他への働きかけができるところまで高めたい。学年が進むにつれての意識の高まりは見られるが、生き方について考え、他への働きかけをさせるには、様々な支援の工夫が必要である。

##### ⑥「評価」

「支援者が各時間ごとに同一の評価規準を持つ」という評価方法により、同じ観点で評価ができ、支援者が注意深く生徒の活動を観察できるようになった。この方法をもとにさらによりよい評価の工夫をしていきたい。

#### (2) 伝統文化への意識

郷土の文化や京都・奈良の文化に実際に触れ、体験することによって、生徒の伝統文化に対する意識が高まった。事前学習の中で、自分で調べ、自分で体験学習を計画し、実際に活動することで、生徒たち一人一人の印象に残る経験ができた。

### 2 今後の課題

生活経験、人生経験の浅い中学生は、自分なりの課題意識しか持つことができない。課題を追求し、成果を生活に生かし、できることを実践するところまでの強く明確な課題意識を持つことができなかった。一人一人の生き方にまで関わられるような明確な課題意識を持たせる工夫が必要である。また、課題意識を持続させ、深めさせるためには効果的な体験活動や支援の方法を工夫しなければならない。

問題解決的な学習を身につけさせるには、総合的な学習の時間だけではなく、各教科の中で課題解決的な学習の下地をつくる必要がある。問題意識を持たせるような授業、問題解決的な授業、調査や体験を取り入れた授業を心がけたい。